

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名: 校内研修プログラム 開発・実践部門	エントリー名: 広島市立城山中学校 渡邊陽一 平成 30 年度第 1 回副校長・教頭等研修
活動名: 教職員への「学び」の提供 小・中規模校における研修のあり方	
解決すべき課題: 昨今、学校現場においては教職員の大量退職期に入り、若手教職員が急増している。服務規律や学級経営、授業づくり、生徒指導等、身につけるべき資質能力は広範囲に渡っている。 また、教職員の年齢構成を見た場合、これまで学校運営の中心となって牽引してきた 40 代の教職員の割合が各学校とも非常に低く、ミドルリーダーの早期の育成が急務となっている。 これらの状況を鑑み、学校現場において各世代の教職員を育成することは管理職のミッションとして重要であると考える。 その中で、小規模校、中規模校では、組織的に研修を行うことが困難である。さらには、働き方改革の中で近隣の中学校が効率的に共同で研修を行うシステムが構築できればと考える。	
目標・方針: ・多忙化する日々の中で、教職員が身につけるべき資質能力をいかに効率的に身につけることができるかを管理職として考える。 ・若手教職員に声をかけ、放課後を活用し、年間数回の「放課後ミニ研修会」を企てる。学習内容は「担任としての行事の取り組み方」、「保護者対応について」等、広範囲の中から若手教職員のニーズを引き出し、選択する。 ・「放課後ミニ研修会」の講師は管理職である私以外にもミドルリーダーである中堅教職員を充てるなど、若手、中堅がともに学べる機会を工夫する。 ・近隣の中学校に声をかけ、合同の「ミニ研修会」を考える。 ・「ミニ研修会」は本音でみんなが悩みや意見を言えるように工夫するとともに、特に若手教職員がストレスをはき出す場となるように考える。 ・各自が自由な時間に気軽に読んで学べる「通信」を発行する。	
活動内容: 「職員室通信」(A4版)の発行 ・昨年度、不定期であるが 21 号を発行した。 1 号「生徒に寄り添う実践とは」 2 号「学級開きについて」 3 号「授業改善について」 4 号「危機管理について」 5 号「保護者対応について」 6 号「地域との連携について」 7 号「承認欲求について」 8 号「生徒指導について」 9 号「生徒指導の心得について」 10 号「生徒指導の心得について」 11 号「保護者対応について」 12 号「スクールコンプライアンスについて」 13 号「コーチングの紹介」 14 号「生徒指導について」 15 号「三者懇談の留意点」 16 号「生徒指導の心得について」 17 号「働き方改革について」 18 号「学習指導要領改訂について」 19 号「学級経営について」 20 号「授業改善について」 21 号「リスクマネジメントについて」 職員会等以外に放課後に教職員が集まる機会を設けることは非常に厳しい状況である。タイムマネジメントを意識し、わざわざ何度も集まり、講義形式でレクチャーしなくとも教頭である私の考えや私が研修で学んだこと、書籍や教育誌等を読んで知った情勢等を書面で伝えることで各自が時間の有効活用がはかれた。 また、生徒指導等で実際に対応したことをみんなで振り返り、危機管理を再確認することも書面を通して行った。	

<p>「ミニ研修」の実施 4 月「学級開きについて」 講師：教頭 内容：参加メンバーが順番に学級開きで考えている内容を交流した。その中で、私が過去に実践した内容を提案という形で紹介した。学級開きの中で行うレクの意義や個々の生徒との「出会い」について具体的に検討できた。 6 月「学級づくりについて」 講師：教頭 内容：日常の若手教職員との対話の中で、学級づくりにおいて班編成の方法がわからないという声を聴いたので学級づくりにおける班編成の意義と方法をプリントを作成し、レクチャーした。 9 月「合唱祭の取り組み方について」 講師：中堅教職員・教頭 内容：合唱祭の取組が始まる前に、ミニ研修会を開き、中堅教職員が自らの過去の取組を発表し、若手教職員からの質問に答えるという内容で学習会を行った。昨年までは、教頭である私の担任時代の取組を一方向的に教えてきたが、身近な先輩教師の失敗談や悩みを聴くことで、実践力を養うとともに、中堅教職員も自らの実践を振り返ることができた。 11 月「授業改善について」 講師：教務主任 内容：初めて近隣の中学校に声をかけ、二校合同でのミニ研修会を企画した。近隣の中学校の校長先生、教頭先生に相談し、学習指導要領改訂をにらみ、授業づくりについての研修を行った。講師を本校の教務主任にお願いし、中堅教職員である教務主任の資質能力の向上も意識した。 内容を隣の中学校の校長先生、教頭先生も理解してくださり、隣の中学校の教務主任をはじめ非常勤講師等若手教職員も参加してもらった。</p>
<p>活動の成果: 「職員室通信」の発行に関して ・多忙な日々の中、放課後に教職員が集まって生徒指導等の事例について振り返ることは難しい。管理職が意識的に実際の生徒指導事例等を振り返り、反省点等を通信でコメントすることで、PDCA サイクルを回し、個々が振り返ることができた。 また、管理職の思いを教職員に周知し、理解を得る一助となった。 「放課後ミニ研修会」について ・ミニ研修会のテーマを設定するために若手教職員の悩み等を聴く姿勢を管理職として意識することができるようになった。 ・他の中学校の教職員との交流により、自校の教職員が刺激を受けるとともに、小規模・中規模校の教職員の抱える実践における閉塞感の解消の一助となった。 ・ミドルリーダーがレポーター、講師となることでリーダーシップを身につけるとともに、自らの実践を振り返る機会となった。</p>
<p>アピールポイント (アイデアや工夫) : ※3~5 程度、箇条書きしてください ・教職員が自分の時間を有効活用し、通信を読むことで自分の時間に研修を行うことができた。 ・ミニ研修では、若手のみでなく講師役の中堅教員も学ぶ機会となった。 ・小・中規模校にとって指導する適任者 (例えば、保護者対応についての研修を誰に担当させるか、カリキュラムマネジメントについての研修を誰に任せるか) の発掘が困難であることが大きい。合同で行うことで、適任者を広く探すことができ、また、他校との交流で新たな実践を自校に採り入れることもできた。 ・中学校間の連携により、他校の教員と交流し、お互いが学ぶことができた。</p>